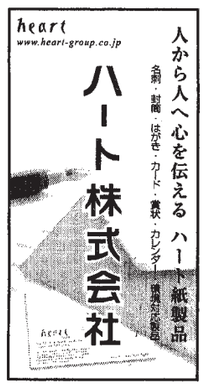
日本印刷新聞

発行所
株式会社 日本印刷新聞社
東京都中央区新富１－16－８
電　話(03)3553-5681（代表）
大阪市中央区北浜３－５－19
６０５号　電話(06)6222-0634
振　替　口　座00140-3-69814




# ミヤコシで研修会

## 日本フォーム工連 寺子屋プロジェクト

## 「技術力」強化の一環

日本フォーム印刷工業連合会（櫻井醜会長）は、本年度、「寺子屋プロジェクト」として「経営力」「マーケティング力」「技術力」の強化施策の一つとしてビジネスフォーム印刷技能を高めるための初の試みとして、全国の工場現場で指導的な立場にある人たちを対象に、実機による3日間の集合教育「ビジネスフォーム印刷技能研修会」を、㈱ミヤコシソリューションサービス本部カスタマーサービス部研修室（千葉県八千代市）で2月6日から3月15日まで4グループに分けて実施している。2月21日、同施設で記者会見を開き、事業概要を説明するとともに研修のようすを公開した。

実機による研修が行われる

記者会見には櫻井会長、日暮秀一技術委員長、大平直木業務委員長、山口実専務理事と研修会に協賛している㈱ミヤコシの宮腰亨社長が出席。冒頭、司会の山口専務理事が「今回の研修会は、座学だけでなく、実際に印刷機を廻して原理・原則をわきまえながらやるのが狙い」と前置きしたのち、日暮技術委員長が「技術力の強化を目的にミヤコシとオフィス知識に協力いただき研修会を実施することとなった。2～3月はBF業界の繁忙期なので参加者が集まるのか心配したが、おかげさまで4グループ（24人）の参加となった。枚葉オフセットは印刷技術に関する国家検定があるが、ビジネスフォーム業界にはなく、各社が機資材メーカーに協力いただき今日まで技術を伝承してきた。フォーム業界で指導内容を統一したい。これを機にビジネスフォーム印刷の機械や資材のマニュアルが一本化できればと考えている」と今後の展望を述べた。

続いて、宮腰社長が研修室のあるミヤコシテクノセンターについて次のように説明した。

「現在、テクノセンターでは機械の生産は一切行っておらず、納入させていただいた機械のメンテナンスのメンバーの拠点になっている。研修会場は、もともと当社の採用活動の一環としてインターンシップを今年から進めていく考えのもと機械の準備をしていた過程の中で、今回のお話をいただき、協力させていただくこととなった。当社では新入社員用の教育の場としても使用している。ぜひ、機械のメンテナンスや運用の部分で業界標準を作るお役立ちができればと思っている」

また櫻井会長は、寺子屋プロジェクトの趣旨を説明し「印刷市場が縮小する中で、ものづくりで競争するのか、コトづくりで競争するのか見極めなければいけないというのが大きな基本的な姿勢である。世界と勝負するには技術力プラスコトづくりが大切である。さらに、技術力の低下問題をどう底上げしていくのか。技術力を持った人間を各社が抱えるというのが平等な競争の原点である」と技術力強化の重要性を訴えた。

会見のもよう

2018年度のビジネスフォーム印刷技術研修会は3日間で①2月6～8日②2月20～22日③3月6～8日④3月13～15日の4グループに分け、各グループ6人の合計24人が参加。研修時間は1日目・2日目が午前9時から午後5時まで、3日目が午前9時から午後3時までとなっている。

研修会1日目の講座はオペレーション準備の実技教育として、マージナルピン・ダイス交換、スリッター刃の交換、ゴム玉の交換、クリーンアップ、マーキングコロの交換を行う。さらにオフセット印刷部の印刷ユニットローラー交換を行う。

2日目は、午前中が座学で「印刷基礎技術原理と原則その数値管理」をテーマに印刷環境条件温度管理、給水部数値管理、インキロール管理、親油処理、親水処理、印刷再現基礎を学ぶ。午後からは印刷設備の条件把握と数値管理の実技教育で、給水部湿し水制作、印刷部インキロール調整、印刷部親油処理と洗浄方法、印刷部親水処理と洗浄方法、印刷テスト実施ゴーストチャートグレーチャート、印刷機の温度測定停止・稼働を学ぶ。

3日目は加工部・折り部の実技教育で、横ミシン胴の交換、横ミシン刃のセット、マージナルパンチ、折部のセット、セット運行、折タオレ調整、運転、テンションコントローラ、ウェブガイドを学ぶ。

研修会には㈱ミヤコシとオフィス知識が協賛。オフィス知識の知識三富代表が講師を務め、実技教育ではミヤコシの技術スタッフがサポートする。ミヤコシの研修室は今年2月に開設。研修用設備としてMVF18Bオフセットフォーム輪転4色機1台を設置。より現場に近い状態にするため、約30年前の印刷機をオーバーホールしたもので、今後、品質検査装置なども追加設置する。

今回の研修会は現場の指導的立場にある人で、なおかつトレーナーや研修を部下に伝える能力のある人を対象に実施し、北海道、静岡、広島、沖縄など全国から参加するなど好評だったことから、次年度では、同研修会を月1回など定期開催するとともに、メンテナンスや新人教育などメニューを広げていく考え。

印刷機メンテナンスの
合同会社 JIS
•冷却水管理　•冷却ローラーの洗浄
•印刷部のドライアイス洗浄
お問合せは☎048-485-9477
FAX.048-485-9478　http://r.goope.jp/jis/

## 全印健保

## 約1億円の黒字予算

### 印刷健保会館 売却前提に協議

青木理事長

全国印刷工業健康保険組合（青木宏至理事長）は2月22日、東京・中央区新川の全印健保会館7階会議室で第167回組合会を開き、平成31年度事業計画および収支予算案を原案どおり承認した。

平成30年度決算は、高齢者医療制度への納付金負担が前年を6億400万円も下回り、減少に転じたのに加え、保険給付費などの主要支出も減少したことから黒字額が当初予算の3億円から7億9000万円に増大する見込みとなった。一方、平成31年度予算は、10月の消費税増税に伴い、初診料や再診料などの診療報酬がそれぞれ増加する予定で、さらに保険給付費が前年決算見込みを1億1000万円ほど上回るとともに、高齢者医療制度への納付金負担もおよそ2億7000万円増加して財政を圧迫、保険料収入も前年決算見込みを約8500万円下回ることから、かろうじて黒字を死守したものの、黒字額は前年を約7億円下回るおよそ1億円の予算を策定した。

議事に先立ち、あいさつに立った青木理事長は「平成29年7月開催の組合会で印刷健保会館事業検討委員会を設置し、平成30年7月開催の理事会で健保会館の存廃を含めたあり方などについての検討結果を報告いただいた。その後、会議を9回開催して議論を重ねてきた。このたび、同委員会の総意として私（理事長）あてに答申があった。答申に基づき交渉をスタートすることをご了解いただくため、のちほど答申内容についてご報告したい」と述べた。

平成31年度事業計画の骨子として、一般保険料率および介護保険料率については、高齢化の進展に伴う高齢者医療制度への納付金ならびに医療費の増大に対応するため、前年度に引き続き一般保険料は1000分の100を維持する。介護保険料率も介護納付金負担に対応するため1000分の16・5を踏襲する。

保険料徴収対策では、さらなる滞納保険料（30年度は900万円前後まで圧縮）の解消に向けて保険料徴収対策を組合運営方針の最重要課題に捉え、保険料債権確保に法的措置も視野に入れ万全を期す。

保険給付および付加給付では、1人当たりの医療費は依然として高い水準にあり、高額薬剤などの影響によりさらに増大することが懸念されることから、健全財政に向けて医療費のさらなる適正化対策を講じる。

保健事業では、「第2期データヘルス計画」を中核として、各種データの分析に基づくさまざまな健康保持増進事業を効果的・効率的に展開していく予定。

健康づくりに役立てもらうため、自発的な健康管理ツールとして、昨年12月に開設した「印刷健保健康ポータル」では、「健康ポイントプログラム」を本格的にスタートする。

監査および個人情報保護の徹底では、事故防止・事務向上に向けた監査強化や、マイナンバー制度に対応して個人情報のさらなる徹底やサイバー攻撃へのセキュリティー強化に努める。

平成30年度収支決算（一般勘定）は、平均被保険者数3万9950人（対予算50人増）、平均標準報酬月額34万8000円（対予算500円減）を基礎に193億3248万円の収入に対し、185億3491万7000円の支出となり、7億9756万4000円の黒字となる見込み。

平成31年度予算（一般勘定）は、平均被保険者数3万9800人（対30年度決算見込み150人減）、平均標準報酬月額34万7800円（同2000円減）を基礎に31年度実質予算は191億8439万9000円の収入に対し、支出は190億8399万4000円で、1億40万5000円の黒字を見込んでいる。

このほか、印刷健保会館の売却について、印刷健保会館事業検討委員会（山口明義委員長）が青木理事長に提出した中間答申書の提案内容を大筋で承認。今後は協議会を設置し、随意契約により売却することを前提に、伊坂美術印刷㈱と売買条件を含めた協議を行っていく。

## 26日にデジタル調査報告会開く

### 日印産連

日本印刷産業連合会デジタルプレス推進協議会は、3月26日午後1時30分から、東京・中央区新富の日本印刷会館2階大会議室で「デジタル印刷の現状と展望」に関する調査報告会を開催する。

今回は、国内の印刷産業における生産機としてのデジタル印刷機活用の状況を把握し、活用度をさらに高めるために毎年実施しているアンケート調査の調査結果の報告に合わせ、展示会の視察報告や、印刷価値についてのパネルディスカッションを行う。

当日のテーマ名と内容は次のとおり。

1、「印刷業界におけるデジタル印刷に関するアンケート調査」報告
講師＝郡司秀明氏（日本印刷産業連合会・デジタルプレス推進協議会座長、日本印刷技術協会専務理事）、花房賢氏（日本印刷技術協会担当部長）

2、「Hunkeler Innovationdays2019」の視察報告
講師＝井上秋男氏（有）メディアテクノス代表取締役）

3、パネルディスカッション「印刷の価値が変わる。どのように」
モデレーター＝郡司秀明氏
パネリスト＝花井秀勝氏（フュージョン㈱代表取締役会長）、岡本幸憲氏（㈱グーフ代表取締役CEO）、山口実氏（日本フォーム印刷工業連合会専務理事）、井上秋男氏

## 今週の情報

印刷企業年金、資産13億見込む。水上印刷、ベストカンパニーとして表彰される　2面
KOMORI、内覧会でH―UV搭載機実演。プリントネット、ウイズプリンティングの印刷・製本事業譲り受ける　3面
甲南堂印刷、デジタル工場兼ショールームを顧客・業界関係者に披露　4面

刊行物・出版物情報はホームページで
www.nichiin.co.jp

圧着テープ・フィルム
圧着加工製作機
総発売元
圧着メールバンク
（60種類所有）
KDK
※取扱い会社募集中！
ケイディケイ株式会社
http://www.kdkweb.co.jp
お問い合わせ:075-671-7158

人の想いを力タチに
日経印刷株式会社
http://www.nik-prt.co.jp
日経印刷　検索
お問い合わせ 03-6758-1011

KONICA MINOLTA
Giving Shape to Ideas
真のプロダクション印刷システム
印刷生産機としての実稼働率の向上、より高い品質の印刷物をより確実に、安定して供給。そしてそれらをスキルレスでのオペレーションで実現する。プロダクション印刷システムの基本性能向上に拘った真の生産機、それが、AccurioPress C6100シリーズです。
AccurioPress
C6100/C6085
マシンの生産稼働率向上
高品質で多彩な印刷物の提供
スキルレスオペレーション
高水準の画像品質を安定供給
合理的な出力環境の構築
印刷物の付加価値向上に寄与
新開発のインテリジェントクオリティオプティマイザー
■色管理・表裏見当調整を自動化
■用紙厚によらず毎分100枚※1の高速出力
■受注幅を拡大する400g/㎡の厚紙対応力
■独自技術を駆使した高画質と色安定性
■サービスの多様化を推進するフィニッシャー群
※1：C6100にて、A4ヨコ・52～400g/㎡紙時
＊写真はC6100にオプションを装着したものです。
コニカミノルタ ジャパン株式会社　PPG営業統括部　〒105-0023 東京都港区芝浦1-1-1　TEL. 03-6311-9061　http://konicaminolta.jp/pr/odp